



久留米市立青木小学校 令和5年度学校通信 NO. 7

あおき

令和5年7月4日
校長 國友 謙

蒸し暑い日が続きますが、保護者の皆様、地域の皆様はお元気でいらっしやるでしょうか。子どもたちは、暑くても元気ですが、運動場で遊べない日もあり、元気をもてあましているときもあります。

さて、今日は本校職員から聞いた話をもとに、全校朝会で「夢」について話したことを書かせていただきます。

6月30日全校朝会「夢」

みなさんに夢はありますか。寝ているときの夢ではありません。

6年生になったら、中学生になったら、大人になったら、こんなことをしたい、こうなりたいという夢です。



ブルーインパルス 5番機
航空自衛隊 一等空尉
江口 健さん

今日は夢を叶えた一人の人を紹介します。ブルーインパルス5番機のパイロット、航空自衛隊一等空尉の江口健さんです。

みなさんは江口さんがいるブルーインパルスを知っていますか。ブルーインパルスはオリンピックなど日本の大きな行事の時に、難しくかつこうがよい飛び方をして行事を盛り上げる専門の飛行機チームです。

大きく回転したり、向かい合って飛んだり、5色の煙を出しながら並んで飛んだり、大空に絵を描きながら飛んだりします。

このブルーインパルスのパイロット江口さんは、小学4年生の時に図書館で本を借りました。本の名前は「パイロットになるには」でした。この頃からパイロットになりたいという夢を持ちました。そして、中学2年生の時、お母さんに「ブルーインパルスを見に連れて行って。」

ゆめ
夢

と、お願いします。そして、実際にブルーインパルスを見ることで、パイロットになりたいという夢がふくらみ、ブルーインパルスのパイロットになりたいという夢を持ちます。

しかし、中学・高校で飛ぶ練習をするなんてできません。江口さんは、勉強をしっかりと学力をつけ、サッカーをすることで体力をつけたのです。そして、高校を卒業した18才の頃、まずは、航空自衛隊に入り、訓練に真剣に取り組み、飛ぶことなどいろんな知識と技術を身につけます。

ブルーインパルスに入ることは簡単なことではありませんでした。江口さんは人の話を素直に聞いて知識を増やし、技術を高め、37才で全国でたったの8人しか入れないブルーインパルスのパイロットになることができたのです。14才でブルーインパルスに入りたいという夢を持ち、23年努力した結果でした。

この夢を叶えた江口さんは、今も日本の大きな行事でブルーインパルスの一員として、人々を楽しませています。

この江口さんを紹介したのは、江口さんが隣の三潴町の出身で、この青木小学校の図書室の江口先生のお子さんだからです。みなさんの身近な人もこんなに難しい夢を叶えることができたことを知ってほしいからです。

ブルーインパルス



ゆめ
夢
ひと はなし すなお き
人の話を素直に聞く
どりよく
努力する

夢は必ず叶うものではないかも知れません。しかし、人の話を素直に聞き、あきらめずに努力することで、夢が叶ったり、夢に近づいたりすると思います。皆さんの夢が叶ったり、夢に近づけたりするとういなどと思います。

これで校長先生のお話を終わります。